

# 図書館だより No. 5

平成24年9月27日発行  
秋草学園高等学校 図書館

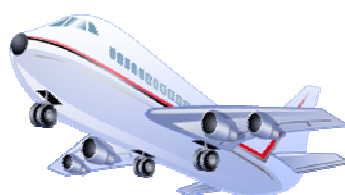
今年の夏も暑い暑い夏でしたね。また、オリンピックで日本中が熱くなった夏でもありました。終日、テレビの向こうの選手たちにエールを送っていた人も多いのではないのでしょうか。

そして、9月には、今度はみなさんが熱くなる桔梗祭が行われました。昨年にも増して、盛り上がりのあった2日間でしたね。たくさん思い出ができたでしょうか。

来月には1年生は遠足、2年生は修学旅行が待っています。2年生の修学旅行の行き先は九州方面ですが、今年で九州方面に行くのは、最後となります。みなさん、それぞれが楽しい思い出を作ってきてください。そのためにも、事前に訪れる場所のことをよく知っておきましょう。

1年生が来年の修学旅行で訪れるのはオーストラリアです。図書館にはオーストラリアに関する本も揃っています。今から早速、オーストラリアのことを知っておきたい人は、本をチェックにきてください。

そして、3年生は受験が始まっています。図書館では小論文対策、面接対策の本も揃えてありますので、どんどん利用してください。



## 熊本城を知る\*

### 521-ク『よみがえる日本の城12 熊本城』 学習研究社

日本三名城の一つとされる熊本城。その名城を見るせっかくの機会ですから、熊本城について知識を深めておきましょう。この本では、熊本城の全貌をCG、イラスト、模型で再現していますが、広大な城内の全体図はまるで迷路のように感じられます。それぞれの役割や特徴が解説されていて、読めば読むほど城に詳しくなれます。当日はこの本で掴んだ全貌を頭に入れながら、実際に目にした時の迫力を感じたり、城の移り変わりや厳重な防備をじっくりと鑑賞し、楽しい城探索をしてきてください。

## オーストラリアを知る\*

### 297-カ『オーストラリアの取説』 川野寛 || 著 リント

この本では、30のキーワードを使って、オーストラリアの様々なことを解説しています。歴史や文化、自然環境、人との交流など、どの分野のことにも初めて知ることがたくさん載っていて、読んでいくうちに、オーストラリアという国に対する興味がどんどん湧いてきます。さらには、キーワードになっている言葉が英語で表記されているので、ちょっとした英語の勉強にも役立ちます。

## 小論文に強くなろう!

秋草の図書館では、進路関連の図書がまとまって「進路コーナー」という棚に置かれていますが、みなさんはちゃんと気づいてくれているでしょうか。

1学期の終わり頃から、この進路コーナーの本で貸出が増えるのが小論文対策の本です。下にこの1年間で新しく増えた小論文関連のリストにして紹介しますので、チェックしてみてください。この他にも、文章力を鍛える本や時事に関する本などもあります。「こういう本を探しているのだけど…」という相談は、いつでもカウンターで受け付けていますので、困った時には気軽に声をかけてくださいね。

また、図書館のパソコンからは朝日新聞の記事検索(朝日けんさくくん)が利用できます。朝日けんさくくんでは、朝日新聞の記事の他にも雑誌「週刊朝日」、「AERA」の記事も検索する事ができます。本と合わせて、朝日けんさくくんも有効活用してください。



分類記号	書名	著者名	出版者
376-イ	合格最短距離の入門!	石関直子    著	学習研究社
376-カ	自分を活かす志望理由書・面接 改訂版	河本敏浩    著 樋口裕一    監修	ナガセ
376-カ	河本の小論文をはじめからていねいに	河本敏浩    著	ナガセ
376-カ	大学入試小論文の完全ネタ本	神崎史彦    著	文英堂
376-カ	大学入試小論文の完全攻略本	神崎史彦    著	文英堂
376-カ	ほんとはやさしい小論文	北岡充子    著	文英堂
376-ケ	大学受験推薦入試・AO入試の面接・小論文	ケーアンドアール推薦入試対策委員会    編	文英堂
376-ケ	大学受験推薦入試・AO入試の面接・小論文	ケーアンドアール推薦入試対策委員会    編	文英堂
376-ケ	大学受験推薦入試・AO入試の面接・小論文	ケーアンドアール推薦入試対策委員会    編	文英堂
376-タ	田中メソッドで書く大学受験小論文〔2011年〕	田中保成    著	土屋書店
376-チ	面白いほど点がとれる!	樋口裕一    著 白藍塾    著	青春出版社
376-ヨ	新小論文ノート	代々木ゼミナール    著	代々木ライブラリー
816-ア	小論文時事テーマとキーワード 社会科学編〔2011~2012〕	相澤理    著	旺文社
816-ア	小論文時事テーマとキーワード 看護医療編〔2011~2012〕	相澤理    著 内田和美    監修	旺文社
816-カ	基礎からベストex. 小論文 MY BEST	学研 高校編集部    著	学研教育出版
816-シ	実践的小論文講座 プロが指導する	島田久美子    著	遊友出版

## 一冊の本から繋げよう

今月の1冊は…

7月に『鍵のない夢を見る』で第147回直木賞を受賞した辻村深月さん。過去にも二度、直木賞にノミネートされ、三度での受賞となりました。10月には著書『ツナグ』が映画化されるということで、そちらも楽しみです。今月は辻村さんのデビュー作となった『冷たい校舎の時は止まる』から繋げて本を紹介していきます。この小説を書き始めた時、高校生だったという辻村さんの構成力にも注目して読んでください。

### B913.6-ツ『冷たい校舎の時は止まる』 辻村 深月 || 著 講談社

雪の降るある日のこと、青南学院高校に通う深月は、降り積もる雪を気かけながら、学校へ向かった。いつもの日常が始まるはずだった朝。しかし、教室に集まったのは、深月を含めた8人の生徒だけだった。よく知った顔ぶれが揃った教室、しかし、校舎のどこにも彼ら以外の人の気配がなかった。戸惑う彼らに追い打ちをかけるように、時計が5時53分で止まり、校舎は彼らを残したまま閉ざされた空間と化してしまった。

そして、彼らはあることに気が付く。どうしても顔と名前が思い出せない一人のクラスメイトがいることを。彼らを校舎に閉じ込めたのは、記憶から消えたクラスメイトなのか。そうならば、その目的は何なのか。答えが見つからないまま、閉ざされた空間の中で仲間たちが消えていく。全てを思い出し、彼らは現実の世界に戻ることができるのだろうか。

自分までもが校舎に閉じ込められたようなスリルを感じられる本です。「怖い…」と思いながらも一度、読み始めると、真相がわかるまで、本が離せなくなるくらい夢中になってしまいます。最後には辻村さんからの挑戦状も待っているのです。謎解きも頑張ってください。



『冷たい校舎の時は止まる』キーワード1

“作者と同姓同名が登場” ~作者も本の世界に行きたいのです~

### B913.6-ミ『骸の爪』 道尾 秀介 || 著 幻冬舎

ホラー作家の道尾は、仏像をテーマにした小説を書くため、仏像を制作している瑞祥房を取材で訪れた。その夜、大小さまざまな仏像が並ぶ作業場で、道尾が目にしたのは千手観音像の笑う姿と「…マリ…」という悲痛な声だった。さらに道尾は仏像が血を流すのも目撃してしまう。瑞祥房を去った後もこの恐怖の体験が心に引っ掛かり、心霊現象を研究している親友の真備の所へ相談に行く。霊の仕業なのか、はたまた何者かの陰謀なのか。不気味な現象と、20年前に姿を消したという瑞祥房の仏師には何か関連があるのでと考えた道尾と真備は真相を求め、再び、瑞祥房を訪れる。

全ての真相がわかるその瞬間まで気が抜けない!! そんな結末が待っています。ミステリーとして楽しむだけでなく、仏像にまつわる詳しい文章にも興味を持って読んでほしいです。



『冷たい校舎の時は止まる』キーワード2

“雪” ~凍てつく雪に包まれて~

### B913.6-シ『ホワイトアウト』 真保 裕一 || 著 講談社

日本最大のダムがテロリストたちに占拠された。人質にとられたのはダムの作業員。その中には、今は亡き作業員・吉岡の妻もいた。テロリストたちの要求は“24時間以内に50億円を用意すること”。それが果たせなかったときには、6億トンものダムの水が街を襲う。

しかし、ダムまでの唯一のルートはテロリストたちの手によって封鎖され、誰一人、雪が吹き荒ぶ山の奥深くのダムにたどり着けるものはいない。何もできないまま、24時間が経ってしまうのか、そんな絶望に人々が包まれている時、ひとりテロリストに立ち向かっている男がいた。それは、間一髪でテロリストの手から抜け出した作業員 富樫だった。同僚たちを救うため、そして、親友だった吉岡の妻を吉岡に代わって救うため、彼の戦いは始まった。読んでいだけで凍えてしまいそうな深い雪の中、富樫はたったひとりで、テロリストたちに勝つことができるのだろうか。



そして、

辻村深月さんの作品を「もっと読んでみたい!!」と思った人には

### 913.6-ツ『鍵のない夢を見る』 辻村 深月 || 著 文芸春秋

第147回直木賞受賞作。

収録されている5編の短編すべて、郊外に暮らす女性が主人公なので身近な話に感じられます。しかし、彼女たちは何らかの形で犯罪と関わり、私たちにどうしたらよいのかわからない心理状態を体験させます。犯罪は不条理なものですし、それは被害者だけではなく周縁の人々の心にもふりかかり、闇を呼び込みます。きっかけは、私たちにも身に覚えのある日常の一コマと変わりありません。それだけに、読み進めば余計に恐ろしさや不安が募ります。

書名にある‘鍵’は、この悪夢のような状況から抜け出す扉を開くための鍵なのでしょう。

友達の犯罪を見た、放火は私へのストーキング、誘拐され連れまわされて、恋人が殺人犯になった、赤ちゃんが誘拐された。それぞれ、その結末に至るまでの心理を丁寧に書き出しているのに、不条理な世界なのに、どんどん引き込まれてしまいます。